

令和2年度第1回 下関医療圏地域医療構想調整会議 議事概要

【日時】 令和2年8月6日（木）～令和2年8月13日（木）

【協議者】 別添のとおり（書面協議）

- 各医療機関の（具体的）対応方針について協議を行い、合意した。
- 第1回各専門部会（書面開催）協議結果の報告を行った。

【議事内容】

1 公立・公的医療機関等以外の医療機関の（具体的）対応方針（医療機関2025プラン（昭和病院、豊関会記念病院））について

資料1により昭和病院及び豊関会記念病院の具体的対応方針の見直し方針を示すとともに、資料3-1により、専門部会の議事概要を書面にて報告した。

（主な意見・質問等）

- 現状とその対策はやむをえないが、地域医療構想の目標年次である2025年も間近であり、急速な人口減少の中、医療機能集約や効率化が強く求められている。将来の医療体制はどうあるべきか、検討を進めてほしい。
⇒ 今後、将来を見据えた構想区域全体の医療提供体制について、議論を活性化させてまいりたいと考えている。
- 2病院を統合、新築するのであれば、地域で不足している回復期病床の数を増やしてもらえないか。ただし、総病床数は計画どおりとする。
⇒ 医療機関相互の協議と自主的な取組を基本としながら、地域で必要な病床機能等について、調整会議において議論を行う必要があると考える。

2 公立・公的医療機関等の（具体的）対応方針（下関市立市民病院）について

資料2により下関市立市民病院の非稼働病床に係る削減予定を示すとともに、資料3-2により、専門部会の議事概要を書面にて報告した。

（主な意見・質問等）

- 新型コロナウイルス感染症も、近い内にワクチンが出るとの事で終息に向かうだろう。他の病床種別への転換等により医療財政を圧迫することがないように、新型コロナウイルス感染症終息後の感染症病床の扱いについても考えておいてほしい。
- 400床未満の範囲内で、感染症病床をもう少し確保することはできないか。
⇒ 現在、県において、今後の新型コロナウイルス感染症の拡大に備えて策定した病床確保計画に基づき、県下全域で受入病床の確保を行っている。

お尋ねの感染症病床数については、国において、感染症対策も含めた、必要とされる医療提供体制の議論を深めていく考えが示されており、その動向の把握にも努める。